



第29回写真の町東川賞 国内作家賞に川内氏

第29回写真の町東川賞の受賞作家が決まりました。海外作家賞は、今年の対象国マレーシアからミンストレル・キュイク・チン・チャー氏(マレーシアクアラランフル)、国内作家賞は川内倫子氏(東京都)、新人作家賞は初沢亜利氏(同)、特別作家賞は中藤毅彦氏(埼玉県和光市)、飛彈野数右衛門賞には山田實氏(沖縄県那覇市)が選ばれました。

海外作家賞のキュイク氏は、アジアの真摯でしかも新鮮な息吹に国際賞が授与されることは望ましい、と高い評価になりました。

国内作家賞の川内倫子氏は、昨年の東京都写真美術館個展で野焼きの映像作品があり、川内氏の世界観が丹念にあぶり出された。タイムリーさが一番際だったのが川内氏であり、国内作家賞にふさわしい勢いがある、と評されました。

新人作家賞の初沢氏は、イラクを写した「Baghdad」、東日本大震災の「True Feelings」、北朝鮮取材した「隣人」で、2年に渡り震災現場と北朝鮮を行き来し、憶測からではなく全体で現状を写し出した。類いまれなタフさが授賞評価となりました。

特別賞、中藤氏の撮る北海道は、すでに懐かしさを内包している。風景の一断片から、日本近代の記憶、そして

さらに蝦夷地としての過去に遡及できるからなのだろう。中藤氏の写真に滲む共感が特別賞として結実した、と評しました。

飛彈野数右衛門賞の山田氏は、沖縄に住んで、基地闘争をテーマとした流れとは一定の距離を置いて子供を中心とした日常や那覇の町並みを中心に、丹念に撮影。その写真は、往時の貴重な記録であり希望であり、飛彈野数右衛門賞の創設意図にふさわしい、と評しました。

授賞式は「フォトフェスタ2013」期間中の国際写真フェスティバル初日8月10日(土)、農村環境改善センターで、受賞作家フォーラムは翌11日(日)、受賞作家作品展は10日から9月4日(水)まで、いずれも町文化ギャラリーで開きます。

海外作家賞、ミンストレル・キュイク・チン・チャー氏



©ミンストレル・キュイク・チン・チャー
シリーズ「The Durian Fanatics」より2011年

1976(昭和51)年、マレーシア北西部の海岸沿い、パンタイ・レミスで中華系マレーシア人として生まれる。

中華系であるためマレーシアの国立大学に行く道を閉ざされ(マレー系住民の経済的地位向上を図るプミプトラ政策による)、台湾に留学。西洋絵画を勉強後、フランス留学し、アルル国立高等写真学校で修士を取得。現在マレーシアの美術学校で教職に就く。

スナップショットや演出的なイメージを用いて、家族や幼少時代を過ごした両親の家、自分が暮らす場所を撮影。写真を通じて家族及び文化的なア